



若柳小学校は、明治6年10月に開校し、今年で創立147年目を迎えました。これまでに、およそ5千人の卒業生を輩出しています。学区は、胆沢扇状地の中央北部に位置し、胆沢川の豊かな水を引いて広がる水田地帯です。多くの子どもたちが農作業にいそむ家族の姿を見て育っていることもあり、優しく、勤勉な子どもたちが多いです。

校章

若柳という地名から、柳をシンボルにしています。校章中央の「若小」の文字を囲んで左右には若い柳の葉と蕾がデザインしてあります。右の枝は6年生までの男子児童を、左の枝は女子児童を象徴し、健やかに成長し



思いが込められた校章
花開くようにとの願いが込められています。

また、校庭にはシンボルツリーの柳の木が植樹され、子どもたちの成長を見守っています。

ゆたかに

105人の子どもたちは、15班の縦割班に分かれ、清掃や児童会行事に取り組んでいます。6年生がリーダーシップをとり、班の活動を進めます。子どもたちが楽しみにしている児童会行事に「若小ウォークラリー」があります。クイズを解きながら校



縦割班のチームワークは抜群

地内を歩く活動です。現在の校舎が建てられたときに、敷地にはたくさんの木が植えられました。木の名前を覚えながら自然

に親しんでほしいと始まりました。



本校では、授業にプロジェクターやタブレット端末などのICT機器を積極的に活用しています。プロジェクターにより教材が大きく映し出されると、子どもたちの集中力はぐっと高まります。6年生になる
タブレット端末を使った授業
とタブレット端末を使って発表を行うなど、表現の幅を広げることができています。



心身の成長を目指します

豊かな自然に触れたり、美しい散居の風景を心に刻んだりしながら通学してほしいと願っています。

学校通信

地域に触れる学習

5年生は、地域の皆さんのご協力の下、胆沢の主要産業である米作りについて体験学習をしています。田植えや稲刈りを体験することにより、育てる苦労を知り、感謝の気持ちを持つことができます。

また、5・6年生は、地域の方から鶏舞を教わり、運動会で披露しています。衣装の着付けは保護者が行います。鶏舞を通し、親子で地域とつながることができます。



米作り体験



鶏舞



○ロードマップ策定の審査過程は非公開が原則であったため、パブリックコメント実施の9月の報告となり、遅れたことをお詫びする。
○申請書提出後に、国際研究者コミュニティで議論が行われ、新たに国際推進チームを立ち上げるとともに国際協力体制など推進の枠組みを再構築することになった。

文部科学省ロードマップへの申請を取り下げ

9月8日、高エネルギー加速器研究機構（KEK）は、文部科学省の「学術研究の大型プロジェクトの推進に関する基本構想（ロードマップ）」へのILC計画の申請を取り下げたことをホームページ上で発表しました。

今回の希望のひかりでは、取り下げの経緯や、ILC実現に向けての道筋などをお知らせします。

○2月に文科省に申請書を提出したが、その後の国際的推進状況を踏まえ、3月に申請を取り下げた。

今回の希望のひかりでは、取り下げの経緯や、ILC実現に向けての道筋などをお知らせします。

★文部科学大臣記者会見

ILC計画のロードマップ申請取り下げについて、萩生田光一文科科学大臣は記者会見で、「KEKが申請を取り下げたのは事実であり、その理由は伺っている。文科省としては、米欧の政府機関との意見交換を行いつつ、国際研究者コミュニティによる議論を注視してまいりたい」と発言しました。

★ILC実現への道筋

森俊則・東京大学素粒子物理国際研究センター教授は、9月24日にオンラインで開催された県ILC推進協議会主催の講演会で、KEKがロードマップ申請を取り下げた経緯を説明した上で、「8月に国際推進チームが発足した。推進チームは1年から1年半ほど活動して世界の研究所間で合意し、『ILC準備研究所』の設立を目指す」と述べ、「ILC準備研究所は、設立してから4年間にわたり、詳細な設計や地質調査などの準備を行う」とし、「平行して、政府間の協議が行われ、世界各国の分担を話し合い、その結果によって、日本が本当にやるかどうかということが決まる」とILC実現への見通しを示しました。

また、同じ講演会で山下了・東京大学素粒子物理国際研究センター特任教授は、「1年半の間に、推進チームが世界のコミュニティと一緒にILC準備研究所を設立することが当面の目標だ」と強調しました。



空が高く雲がくつきり見える、すがすがしい季節となりました。いかがお過ごしですか。

9月21日、延期していた江刺甚句まつりが開催されました。新型コロナウイルス感染症対策として、来場者数を制限するなど規模を縮小しての実施となりました。主役である江刺地域の42歳年祝連絆勇陣、25歳年祝連結碧連のほか、他地域の厄年連も友情出演し、熱気あふれる演舞を披露してくれました。まさに元氣と活気を与えていただき、ありがとうございます。

9月5日、市国際交流協会主催のタウンミーティングに参加しました。災害時の対応をテーマに開催され、非常時にどのような行動をとればいいのか、日頃どのような準備をしておくべきかを、市内在

住の外国人市民の皆さんと考えました。折しも、当日は市内に大雨洪水警報が発令されており、参加者それぞれが、改めて防災について考える良い機会になったと思います。

9月14日、本市出身の元総理大臣・斎藤實の妻で、名誉市民でもある春子さんの50回忌法要に参加し、参列された皆さんと、その遺徳をしのびました。現在、斎藤實記念館では「斎藤春子のドレス展」を今月末まで開催しています。夫人ゆかりのドレスや装飾品など貴重な品々が展示されていますので、ぜひ足を運び、春子さんの生きた時代を感じていただきたいと思います。

奥州市長 小沢昌記